

タイトル 尾池所長 新所長就任にあたって

掲載日 2009年4月25日(土)

掲載紙誌名 朝日新聞

掲載面 第2京都版 35面

朝日新聞 35 第2京都 13版▲ 2009年(平成21年)4月25日 土曜日 写



国際高等研究所長 尾池和夫さん(68)

トップの一言

暮らし

国際高等研究所(木津川市)は、人類の未来と幸福のため、必要なことや課題を見だし解決の方策を考えています。各分野で功なり名遂げた研究者の中から、今まで積み重ねてきた研究をもう一歩進めようという人をフェロー(招聘学者)として招いています。これまで約80人。ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎さん、小林誠さんもフェローです。ほかに、「物質と光」「文化と社会」「心と脳」などを研究対象とする21の研究プロジェクトがあり、460人ほどの研究者が参加しています。お金のかかる研究や大規模な実験はできませんが、静かに考

おいげ・かずお 東京生まれの高知育ち。京大理学部卒。専門は地震学。前京大総長。4月に国際高等研究所長に就任。

人類の未来、じっくり議論

え、議論できる場所がありません。今の大学では、すぐに成果の出る研究が求められています。が、ここでは評価を気にせず、高度な研究に専念できます。その意味で、本当に学問を究めた人にはあこがれの場所です。日本でも唯一の研究所だと思っています。その部分はしっかり守っていきたいと思います。資源やエネルギー、環境、心などの研究は、前提が違えば結果が大きく変わります。この研究所は、学問の背景をしっかりと支え、本質を見誤らないようにするのが役目です。また、大学、研究機関、企業をコーディネートする機能もあります。この研究所は、一般の方にはなじみが薄いのが実情です。地域の支えは大事ですから、知ってもらおう努力をしたいと思っています。5月23日に公開講演会を開き、私が「地震を知って震災に備えるー京阪奈地域を中心としてー」というテーマで話す予定です。6月には所内で茶会も開きます。(聞き手・西江拓矢)